

令和6年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 高蔵 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、6年生を対象として、令和6年4月18日（木）に、「教科（国語、算数）に関する調査」、文部科学省が指定した日（4月10日から4月30日の間）に「児童質問調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査（国語、算数）

教科に関する調査（国語、算数）
① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

(2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○ 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

(1) 全国・本市の学力調査（国語、算数）の結果

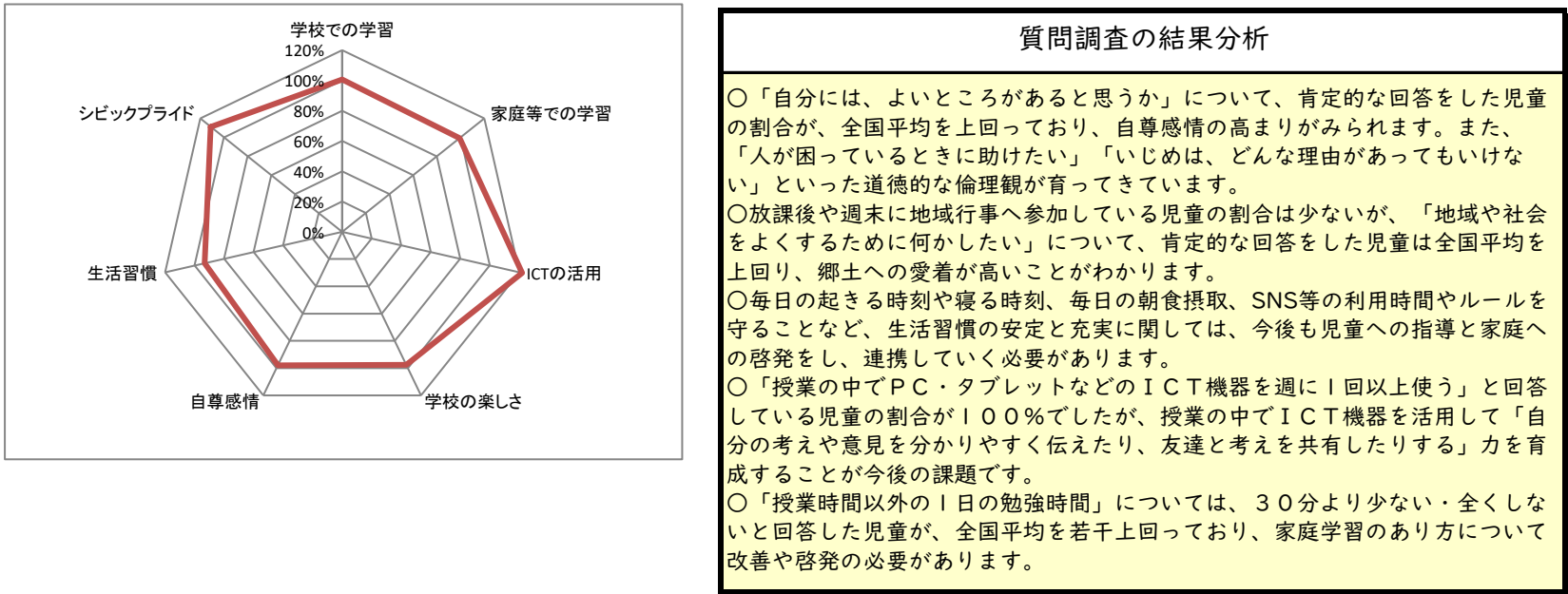
本年度の結果	国語		算数	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	9.3	66	9.6	60
全国	9.5	68	10.1	63

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	本年度の本校平均正答率は、全国平均正答率より下回っている。特に、言語の特徴や使い方に関する事項と我が国の言語文化に関する事項について、他の事項に比べて無回答率も高くなっており、正答率も低くなっている。	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することができるかどうかをみる問題。目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる問題。	下回っている
	努力が必要な問題	話し言葉と書き言葉との違いに気付くことができるかどうかをみる問題。登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えることができるかどうかをみる問題。	

算数	全体的な傾向や特徴など	本年度の本校平均正答率は、全国平均正答率より下回っている。特に、「データの活用」及び「変化と関係」の領域において回答率が低く、「記述式」の問題について、言葉や数を用いて求め方や答え方を記述することに課題がある。	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	直方体の見取図について理解し、かくことができるかどうかをみる問題。除数が小数である場合の除法において、除数と商の大きさの関係について理解しているかどうかをみる問題。	下回っている
	努力が必要な問題	速さの意味について理解しているかどうかをみる問題。簡単な二次元の表を読み取り、必要なデータを取り出して、落ちや重なりがないように分類整理することができるかどうかをみる問題。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問調査結果の概要



5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

○各教科の基礎的・基本的な内容の更なる定着を図るために、ICT機器を効果的に活用した授業改善や補充学習の取組を進めます。特に、GIGA端末を調べ学習を行う際だけでなく、友達と意見を交換したり、自分の意見をまとめ発表したりする場面等で効果的に活用していきます。

○教科の学習の中で、自分の考えをもち、自分の思いを表現することができるようになってきました。今後、児童が自身の考えをさらに表出できるように授業改善を図っていきます。また、ICT機器を効果的に活用して友達との意見交流を行い、自分の思いや考えをさらに深める学習活動に取り組みます。

○様々な教科や総合的な学習の時間の中で、意図的・計画的な追求活動を仕組むとともに、高蔵校区の「ひと・もの・こと」に積極的にかかわる活動を充実していきます。

② 家庭生活習慣等に関する取組

○みんなで守る「タッカー三つの花大作戦」について児童にめあてをしっかりとせ、基本的な生活習慣の安定を図り、気持ちよく生活できるようにします。

○家庭学習について、時間や内容等を吟味し、家庭での学習習慣の確立や基礎的、基本的な学力の定着を図ります。また、学年に応じて、自主学習ノート等を活用して、自分で計画を立てたり、興味・関心のある課題に対して進んで取り組んだりするようにします。

○食育の取組を充実させ、食に関する興味・関心を高め、朝食摂取率を高めるようにします。また、読書の日の取組や朝の読書タイム等を活用して、読書習慣が身に付くようにします。

○SNS等に関しては、学級で折に触れて指導するとともに、学校・学年通信・学校ホームページ等を通して、さらなる啓発を図ります。また、ゲストティーチャーを招聘するなどして、より身近な問題として捉えることができる指導を行います。

○学習習慣の形成に向けて「まなQチャンネル」等、家庭学習に適した資料を保護者に紹介し、積極的な活用を促します。また、学校通信・学年通信や学校ホームページで、保護者アンケートの結果等を公表し、本校の成果や課題を保護者に周知し、協力を得るようにします。